

米国における水上住居の現状と法規制に関する調査研究

-その2 ワシントン州シアトル市を対象として-

A study on the present situation of floating residence and regulations in the United States

-Part 2 Case study of city of Seattle, Washington -

○佐藤緋里¹, 土橋大輔¹, 畔柳昭雄², 菅原遼²

*Akari Sato¹, Daisuke Dobashi¹ Akio Kuroyanagi² Ryo Sugahara²

Abstract: In this article, we aimed at the city of Seattle, Washington State, and aimed to grasp the formation of floating residence, related laws and regulations and the positioning of floating residence in city of Seattle.

1. はじめに

本研究では、その 1 において、米国全土における水上住居の現状と法規制を把握した。その上で、カリフォルニア州マリナー郡における Floating Home(以下、FH と示す)の法規制を明らかにした。

本稿では、500 隻以上の FH が存在するワシントン州シアトル市を対象に、水上住居の成立経緯とその法規制を把握した。

2. 調査概要

Figure1 に 2017 年現在のシアトル市における FH の分布と隻数を示す。本稿では、まず Google Earth を用いてシアトル市における FH の分布と隻数(ユニオン湖 370 隻、ポーテージ湾 138 隻)を把握し、その後、WEB 調査 (2017 年 8 月 14 日～9 月 25 日) を行い、シアトル市における水上住居の成立経緯とその現状及び法規制を把握した。

3. 調査結果

Figure2 にシアトル市における水上住居とその法規制の変遷を示す。

3-1. シアトル市における水上住居の成立経緯

シアトル市は、1853 年にセントラルウォーターフロントに製材工場が建設され、木材の集積地となった。その際、労働者が水上に粗末な小屋を建設し、作業場や住居として利用したが、これが水上住居の起源とされる。こうした水上住居はセントラルウォーターフロントやデュワーミッシュ川、ユニオン湖、ユニオン湾、ポーテージ湾、ハーバー島などシアトル市内各地の水域に普及し、その後、漁業従事者や港湾労働者に波及した。

1880 年頃には、鉄道の開通や石炭採掘の開始、アラスカ州のゴールドラッシュの発生などにより、シアト

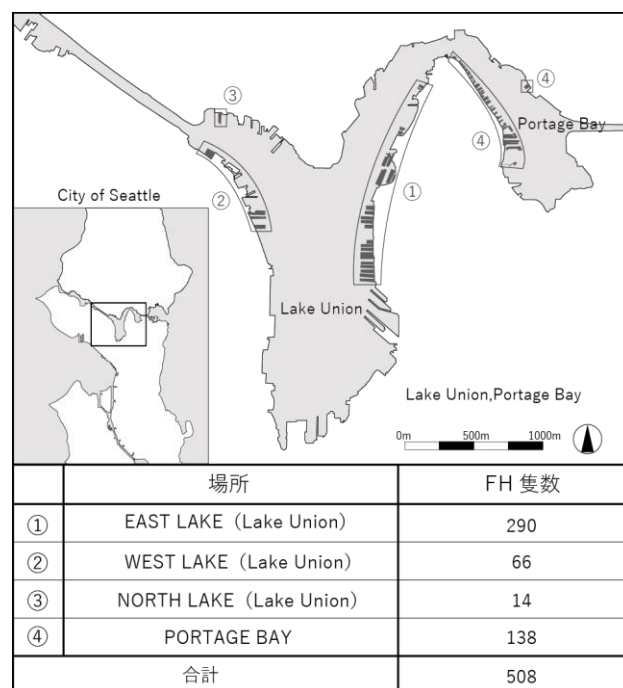


Figure1. Number of Floating Home

ル市の人口は急増し、それに伴い水上住居の居住者も増加した。

また、ワシントン湖周辺は、1890 年頃から行楽地として発展し、その周辺水域は富裕層のための別荘として FH が利用されるようになった。

こうした中で、1908 年にはセントラルウォーターフロントにおいてスラム化した FH に対する立ち退き命令が保健局によってなされ、その一部はデュワーミッシュ川やハーバー島へと移動した。

その後、1929 年に発生した世界恐慌による不況により、家賃や税金の支払いが不要な水上に安価な住居を建設する人々が増え FH のスラム化が進行した。しかし、1939 年の第二次世界大戦を背景としたシアトル市における雇用機会の増加に伴い、スラム化した FH の撤去がなされた。そのため、水上住居の居住者は、

1 : 日本大学・学部・海建

2 : 日本大学・教員・海建



Figure2. Transition of Floating Residence and regulations

1945年頃を境に労働者やスクワッターから学生やヒッピー、芸術家へと変化していった。

3-2. シアトル市における法規制の変遷

水上住居は、その発生当初より下水道が整備されおらず、汚水を垂れ流していたため、水質への悪影響を及ぼしていた。そのため、1950年以降、市議会によるFH撤去に向けた取り組みが展開され、それにより、FHの数は減少した。こうした状況に対して、1962年に、FHの保守を目的としたFloating Home Association (FHA)がFH居住者によって設立され、下水道整備の促進や水上住居撤去の反対運動が行われた。その結果、1968年には下水道の敷設工事が完了し、翌1969年には下水道に関する規制が制定された。これを機に水上住居に関する法規制としてSeattle Shoreline Master Program(SSMP)がシアトル市によって施行されたことで、周辺住民の水上住居に対する意識が改善された。

それに伴い、居住者はヒッピーや学生から富裕層へと変化していった。

また、近年の動向としては、2015年にSSMPの改正がなされ、水上住居の詳細な位置付けが定められた。

4. おわりに

本稿ではシアトル市における水上住居の成立経緯とその法規制の現状を把握した。その結果、シアトル市の水上住居の成立には産業発展や経済悪化などの社会的背景が影響しており、加えて、法規制を通じた独自の水上住居の位置付けがなされていた。

参考文献

- [1] 鈴木信宏：「SEATTLE'S FLOATING HOMES シアトルの浮家」, 都市住宅, pp.75-86, 1985.
- [2] Peter Blecha : 「Seattle's Historic Houseboats」, <<http://www.historylink.org/File/9507>>, 2010.